

令和4年度学校経営計画に対する最終評価 報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 指導の個別化と学習の個性化により基礎・基本の定着を図るとともに、授業のユニバーサル化を推進することで、主体的に学習しようとする態度を育む。	① 視覚化・焦点化・共有化などのユニバーサルデザイン化の観点を意識した授業を行う。	教務課 全教職員	「ユニバーサルデザインを意識した授業の展開ができている・ほぼできている」教職員の割合が、 A 100% である B 87% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	A	GIGA 校内研修を重ね、ユニバーサルデザインを意識した教材が有効であるとの共通理解が進み、各教員が工夫を凝らした教材を使って授業を行った。教員への自己評価アンケートでは、「できている」が25%、「ほぼできている」が75%であった。生徒へのアンケート結果からも、「スライドなどが参考になる」91%、「わかりやすい授業」91%という評価を得た。ユニバーサルデザインを意識した授業展開が標準化しており、今後も互見授業等をとおして授業改善を図る。
	② ICT機器の効果的な活用や協働を促す授業を行う。	教務課 各教科	「主体的に授業に参加できている・ほぼできている」生徒の割合が A 85% 以上である B 65% 以上である C 50% 以上である D 50% 未満である	A	生徒への授業評価アンケートによると、「授業に意欲的に参加できている・ほぼできている」と回答した割合は、前期83%、後期89%であった。 来年度は、教員の研修を進めることにより、ICT機器（Chromebook 等）をさらに有効活用し、主体的に授業に参加できる生徒を育てていく。

学校関係者評価委員会の評価

- 先生方が教育機器の積極的活用を図っている様子がうかがえる。これからも ICT だからこそできることや、有効な活用方法を、互見授業等で教科の枠を越えて探ってもらいたい。
- 「課題解決学習」等と肩肘張らずに、本時のめあてを明確に持たせて、生徒に「分かった」という達成感を持たせて欲しい。
- 生徒に寄り添った授業が行われている。

学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策

- 今後も、基礎からの学び直しをとおして、生徒が学習において「わかる」「できる」を実感できる授業を積み重ねていく。
- 今後さらに、授業において ICT 機器をより効果的に活用する場面を、全教職員で探っていく。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 学校生活全般を通して社会で必要なルールやマナーの定着を図るとともに、集団活動の中での役割を担うことで自己肯定感を高める。	① 各種教室（非行防止教室、防犯教室など）の開催により、生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	生徒指導課	「ルールやマナーを守って学校生活を送っている・ほぼ守っている」生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A	生徒指導に関する生徒への意識調査では「ルールやマナーを守って学校生活を送っている」と答えた生徒は65%（昨年度32%）、「ほぼ守っている」と答えた生徒は30%（昨年度68%）でほとんどの生徒が規範意識を持って学校生活を送っている。 登校後に携帯電話を提出する指導や、家庭でのSNS等の使い方などでルールやマナーについて再考するという課題がある。
	② 学校行事や生徒会活動等への参加により、集団の一員としての自覚を持ち、自己肯定感を高める。	生徒指導課	「学校行事や生徒会活動等に参加し、自分の役割を果たした・ほぼ果たした」生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A	生徒指導に関する生徒への意識調査では「自分の役割を果たしたと感じている」と回答した生徒は48%（昨年度65%）、「ほぼ果たしたと感じている」と回答した生徒は44%（昨年度32%）であった。学校祭、青春のこだまなどの学校行事において、キャリアパスポートや振り返り文をとおして、行事の意義を理解し、積極的に参加することで自己肯定感を高めた。 ただ少数ではあるが、行事を欠席しがちな生徒がいる。これらの生徒の自己肯定感を高める取組が課題である。
	③ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、毎日の生徒情報交換会・個人面談・アンケート等を実施することで、いじめを未然防止する。	生徒指導課 全教職員	「いじめを未然防止する取組をとおして、生徒の現状を理解し、十分成果を上げている・ほぼ上げている」教員の割合が A 100%である B 87%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A	「いじめを未然防止する取組をとおして生徒の現状を理解し、十分成果を上げている」と回答した教員が63%、「ほぼ上げている」と回答した教員が37%であった。友人との距離の取り方で悩み、相談する生徒はいるが、いじめの相談は生徒、保護者ともになかった。 生徒が教員に相談しやすい雰囲気作りを大切にし、教職員間の情報交換会等でアンテナを張り巡らせ、いじめ・偏見を許さない学校づくりをする。

学校関係者評価委員会の評価

- ・引き続き「気になる生徒」については情報交換会を継続して、全教職員で共通理解・共通実践を図ってもらいたい。
- ・学校行事等については、お互いの良さが実感できる協働作業の場面を増やし、また、行事終了後も、教員が活動の意味づけ、価値づけをして、生徒たちに満足感を持たせていって欲しい。
- ・日本人は、自分も含めて全体的に自己肯定感が低いと感じる。誰でも初めはできなくて当たり前であり、継続する事、努力する事でできる事が増え、達成感ややりがいを感じたり、人の役に立つことで、少しずつでも自己肯定感が高まればよい。
- ・いじめとは言えないまでも、放置することでいじめにつながるような関係性もあると考えられる。早期発見、いじめの防止のため、生徒とのコミュニケーションは重要と考える。

学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策

- ・毎日 21:00～21:15 の時間帯に、一日を振り返り、生徒全員の情報を全職員で共有している。今後も、生徒のわずかな変化を見逃さず、問題が大きくなる前に早期発見し、問題の未然防止と、早期解決に努めていく。
- ・今後も、生徒の長所を活かし、生徒が自分を肯定できる環境に身を置けるような働き掛けを継続する。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）		
3	キャリア教育を推進する中で、社会人として必要な人間力や望ましい勤労観・職業観を育成し、個に応じた進路実現のための指導の充実を図る。	①	進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路指導課	「進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を持つことができた・ほぼできた」生徒の割合が A 85%以上である B 65%以上である C 50%以上である D 50%未満である	A	生徒の進路意識向上を目指して、「定通企業ガイダンス」へ参加したり、「地元企業とそこで働いている人を紹介した冊子」と「いしかわ企業人インタビューDVDを用いた学習会」や、進路講話として特定社会保険労務士を招いての『高校生のための労働条件セミナー』を開催したりした。後期アンケートでは「勤労観・職業観を持つことができた」と回答した生徒が43%、「ほぼできた」が48%で、「ややできなかった」「できなかった」と回答した者がそれぞれ1名ずついた。引き続き、進路についての知識を習得したり、自分の進路を考えたりする場を設けて、生徒個々に応じたきめ細かな進路指導に努めていく。
	②	教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、インターンシップ・企業見学等の受入を依頼する。	総務課	「インターンシップ等を受け入れてもらった会員企業が」 A 12社以上である B 10社以上である C 8社以上である D 8社未満である	A	本校教育振興会の会員企業に、インターンシップ・企業見学の受け入れを依頼したところ、15の会員企業から受け入れ可能の返事をいただいた。昨年と比較すると4企業増で、コロナ禍ではあるが多くの企業に協力をいただくことができた。学校関係者評価委員会で、大切なのは受け入れ可能の会員企業の数ではなく、希望する生徒に企業見学等を実施することができたかどうかであるという意見をいただいた。来年度は「希望する生徒に会員企業で企業見学等を実施することができた」割合を達成度判断基準としたい。	
<p>学校関係者評価委員会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と体験を通して、適切な勤労観・職業観を培って欲しい。 ・仕事は生きるため（生活等）に必要なが、家や車を買う、旅行する、幸せな家庭を築くなど、自分の夢を叶えるための手段であると考えられる。つらい仕事は続かないが、仕事を通じて自己成長を求めていくと、お客様や同僚から感謝され頼りにされて、やりがいを感じて一番のモチベーションとなる。なかなかできることではないが、人のために働くことが自分のためになる（自分に返ってくる）。 ・生徒のアンケートで勤労観・職業観をもつことがややできなかった、できなかったと答えた生徒がそれぞれ1名ずつおり気になった。個人の問題だと思うが、どのような課題を抱えていても将来は職業に就くことは必要。保護者とも連携し、課題解決に取り組んでいただきたい。 							
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も学習、勤労体験、企業ガイダンス、進路講話等をとおして、生徒たちにより良い「勤労観・職業観」を身につけさせる。 ・教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努めると共に、会員企業に依頼し、企業見学等を実施する。 							

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 家庭や地域と連携した健康教育を推進し、健康安全指導の充実を図る。	① 計画的に健康安全指導の充実を図る。 ② 食育をとおして食の知識を身につけるとともに、食生活を改善するよう指導する。	保健 厚生課 各担任	「各種の健康や安全に対する取り組みが生活習慣の改善に役に立つ・ほぼ役に立つ」と思う生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A	12月に学校歯科医と連携して食育教室を開催し、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身につけるよう指導した。実施後のアンケートでは、94%の生徒が「講演会はよかった・やや良かった」と回答し、受講した全員が「学んだことが今後役に立つ・やや役に立つ」と回答した。 次年度も生徒に正しい知識や情報を伝え、生徒自ら健康で安全な生活を実践しようとする意識の向上を目指す。

学校関係者評価委員会の評価

- ・食育の講演会については、バランスのとれた食生活が今後の健康に大いに影響すると気づいたという生徒の感想も多い。科学的知見は説得力もあるので、これからも取り組んでいただきたい。
- ・大人でも嗜好品の中で、体に悪いことを理解していても止められない事が多い。自分だけは健康を害さないと思っている大人が多いが、人間は大体皆同じ身体なので、生活習慣次第で良くも悪くもなる。病気になる事は分かっているにもかかわらず止められないので、病気をお金と時間で表すと現実味がでるのではないか。（家族への負担、治療費、薬代、仕事ができない、貧困 他）
- ・スマートフォン使用について、使用することを止めることは現実的でないと感じている。使用するにあたって注意すること、例えば犯罪に巻き込まれるリスク、詐欺被害にあうなど、加害者にも被害者にもならないための教育が必要と考える。

学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策

- ・中学校から入学してくる生徒や他の高校から転入学してくる生徒の中には、朝起きられずに遅刻を繰り返すうちに、学校に行きづらくなり不登校になった、という生徒がいる。本校は午後からなので、朝寝坊しても学校に登校できる。反面、21:00に放課になり、その後夜通し起きている生徒もいる。自己の健康を見つめ、規則正しい生活習慣を4年間で確立させ、社会に送り出すよう指導していく。
- ・SNSの利用については、非行防止教室やLH・集会での指導等とおして引き続き注意喚起をおこなう。日々、新しいアプリが開発されている現在、生徒には危険性のあるものには手を出さないよう継続して指導する。（個人情報吸い取られるアプリなど）

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5	ワークライフバランスの視点を意識し、効率的な校務運営を推進することで、メンタルヘルスの保持増進に努める。	① 書類・データ等の整理整頓を行うと共に、重要度と緊急性の観点から優先順位を決める。 ② お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行する。	全教職員 「お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できた」教職員の割合が A 100% である B 87% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	A	・教員8名を対象に、「お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できたかどうか」を聞いた結果、「よくできた」と回答した教員が38%（昨年度43%）、「まあまあできた」と回答した教員が62%（昨年度57%）であった。 ・今後さらにICT機器等を活用して事務的作業の効率化を図り、自らの業務に対して改善の意識を持ちながら職務遂行にあたる。 ・3月4日の卒業式（総務）、3月17日の球技大会（生徒会）では、企画・立案は中心となる課が行い、運営は全職員で係分担をして行う。 ・3月10日には転入学・編入学試験、3月22日には学力検査を控えており、失敗が許されない業務が続くが、管理職が舵を取り、適切に人員を配置して、効率的に業務を遂行していけるようにする。
<p>学校関係者評価委員会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般企業では就業時間が決まっている。サービス残業、持ち帰り残業はブラック企業である。心の余裕がないと良い仕事はできない。より良い社風、校風を築いてもらいたい。 					
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸いにも、本校教職員は残業をほとんど行っていない。他の全日制の高校が、放課後行っている業務を13:00～17:20の授業前に行うことができている。今後も互いに協力し合い、効率的な業務遂行に努める。 					

【その他の意見】

- ・評価がすべてAであることに加え、教師が生徒に寄り添っている様子がうかがえ、良い学校であると感じる。
- ・教員が、こまめに生徒一人一人に声かけをしている様子で、感心させられる。小規模校ならではの難しさもあると思うが、特性を活かして、無理し過ぎず、頑張っていて欲しい。
- ・生徒たち個々の様々な課題があるが、高校卒業を目指す生徒たちにとって定時制高校は受け皿の一つである。その存在意義は大きいと思う。これからも一人一人の生徒に向き合い、生徒たちが前向きに自分の人生のステップを上げていけるよう尽力されることを期待する。そのためにも教員の働き方改革やICT推進による業務改善は重要と考える。